

平成3年度厚生省心身障害研究
「市町村母子保健活動の効率化に関する研究」

主任研究者 野崎貞彦

妊娠・出産・育児情報の需要に関する研究

分担研究者 岡本 暁

妊娠・出産・育児情報の
数量的評価に関する研究

分担研究者 岡本 暁¹⁾

研究協力者 横山哲也²⁾ 横田俊一郎³⁾ 土井正子⁴⁾
斉藤幸子⁵⁾ 渡辺ひろみ⁶⁾ 山 了吉⁷⁾
泉 美智子⁸⁾

要約：

マスコミによって流される妊娠・出産・育児に関する情報に対して、受け手がどのように反応しているかという調査は既に存在するが、情報そのものに関して解析した研究、あるいは情報を量として捉える研究はほとんど見受けられない。情報そのものの解析には質的解析と量的解析の側面が存在するが、新しいアプローチの方法としてマスコミ情報の量的解析の手法の確立を試みた。

マスメディアとして雑誌メディアを選び、まず、広告・漫画などを含めたのすべての記事から、情報を①正常妊娠、②異常妊娠、③分娩・出産、④育児上の親側の情報、⑤健康な子の育児情報、⑥子どもの病気・事故の6つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーに13ないし17、合計90の洗い出し項目を設定した。この項目に従って検索した結果、この項目ですべての記事内容を分類できることが判明し、少なくとも雑誌メディアにおいては本法によって情報の量的解析が可能であると考えられた。

見出し語：

雑誌メディア、 妊娠出産育児情報のカテゴリー化、 正常妊娠、 異常妊娠、
分娩・出産、 育児上の親側の情報、 健康な子の育児情報、 子どもの病気・事故

1) 愛育病院小児科、2) 東横病院産婦人科、3) 社会保険中央病院小児科、4) 愛育病院栄養科、5) 日本総合愛育研究所母子保健研究部、6) 日本橋保健所予防課、7) 小学館ビー・アンド編集部、8) 泉事務所

研究目的：

我が国の小児の保健水準は、乳児死亡率に見られるように戦後短期間のうちに驚異的に改善され、今や世界のトップレベルにあることはいまさら述べるまでもない。

現在その要因分析を世界が求めていることもまた周知の事実である。

保健行政の充実、医学・医療の発達、国民の医療を受ける機会の増進、国民生活水準の向上など多くの要因が挙げられる中で、公教育の普及によってもたらされた高い識字率をベースとした、保健情報・保健サービスの受け手の preparation もまた不可欠の要因であろう。

低識字率の多くの途上国が、保健知識普及のため、I.E.C. (Information, Education, Communication) 活動に多くのエネルギーを費やしなが、それでもなお十分な効果を挙げ得ていない事実は、国民の保健レベルの向上にとって、識字率が重要な要因となることを物語っている。

国民の高識字率を前提としたマスコミによる妊娠・出産・育児に関する情報の流布の変遷をたどること、そして同時にその間の母子保健に関する統計の分析によって、国民の産育に関する意思決定 (attitude) と、それがどのようにして実際の産育という behavior に結びつくかという点においてマスコミが果たした役割についての知見が得られるであろう。

そのような基礎に立てば、少子化問題が叫ばれる現代において、マスコミから流される情報が受け手である国民に対してどのようなインパクトを与えているのか、情報過多といわれる現代にあって現実はまだにそのとおりなのか、すべての受け手にとって情報過多という状況が存在するのか、またマスメディア

は単なる情報の送り手という立場に甘んじて良いものなのかなど、検討すべき多くの課題が浮き彫りにされてくる。

これらの課題を掘り下げていくことによって、将来の我が国の子育てに対してマスコミに期待すべき事柄、あるいはマスコミの果たすべき役割というものがおのずと visualize されるであろう。

子育て支援ということが社会の責任において行われるべきものであるということが認識されつつある現在、社会に対して大きな影響力を持つマスコミを対象として研究を行う意義はここに存在するといえる。

しかし、マスコミによって流される妊娠・出産・育児に関する情報に対して、受け手がどのように反応しているかという調査は既に存在するが、情報そのものに関して解析した研究はほとんど見受けられない。なかんずく情報を量として捉える試みは皆無と言って良いであろう。情報そのものの解析には質的解析と量的解析の側面が存在するが、新しいアプローチの方法としてマスコミ情報の量的解析の手法の確立を試みた。

研究方法：

マスメディアとして出版メディアを選び、その中から育児雑誌と称されるものを研究の対象とした。育児雑誌の中でも、妊娠・出産・育児を一冊の本でカバーしうる小学館発行の「ビー・アンド」を対象に選んだ。選択の基準は前述の理由以外に、出版から6年程度しか経過していないため創刊号から最新号までのすべてを検索しうることも挙げられる。

まず、広告・漫画などを含めたのすべての記事から、妊娠・出産・育児情報を、別に設定した項目に沿って洗い出す。洗い出す項目

表1-1 検索項目一覧（各記事のアイデンティティ）

記事の タイトル	*									
ID	メディア	個体識別			量的	質的カテゴリー				
用紙番号	コード	年	月	番号	頁数	本・付	内容	制作者	SQ	肯定度
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11

*：ここだけ文字で記入。目次上のタイトル。広告社名・商品ジャンル・商品名。

1：記入しない。

2：記入しない。

3：西暦年号の下2桁。（1989年なら89）

4：何月号。（3月号なら3）

5：表紙から数えて何番目に登場した記事か。

6：記事の量としてのページ数。必要なら小数点以下1桁まで。

7：本誌なら1、付録なら2。

8：1 実用、2 読み物、3 漫画、4 読者投稿、5 クイズ、6 広告、7 非該当、8 小学館の
育児相談案内

9：1 専門家執筆、2 専門家監修、3 専門家インタビュー、4 編集部、5 非専門家執筆、
6 非専門家インタビュー、7 読者投稿、8 広告主指定。

10：9 が1・2・3の場合、1 医師・歯科医、2 保・助・看、3 栄養士、4 心理・教育、
5 その他。9 が4～8なら—。

11：1 肯定的（おすすめ）、2 否定的、3 中立的。

については一つの記事中においては何回出現しても1項目として扱う。その記事が占めるページ数を項目数で除したものをその記事におけるその項目のポイントとする。それぞれの記事が実用記事であったか、読み物であったか、漫画であったか、広告であったかなどによりそれぞれの重みづけ係数を付与し、

トータルポイントを算出することにより情報の数量化を図る。

さらに各記事の執筆者を専門家、編集者、タレントなどに分類し、それぞれの重みづけ係数付与や、記事の内容が項目に対して肯定的であったか、否定的であったか、あるいは中立的であったかなどに関しても考察を加え

表 1-2 検索項目一覧（洗い出し項目-1）

カテゴリーⅠ： 正 常 妊 娠	カテゴリーⅡ： 異 常 妊 娠
1. 妊娠前 2. 妊娠の成立 3. 妊娠に伴う体の変化 4. 妊娠中の心身のトラブル 5. 胎児への影響 6. 妊娠中の順調な日常生活 7. 妊婦健診・母親学級 8. 妊娠合併症 9. 胎児のトラブル 10. 妊娠中の自助努力 11. 夫の役割 12. 正常妊娠中の食生活 13. 妊婦洋品 14. 夫以外の人間関係	1. 出血 2. 切迫流産・流産・切迫早産 3. 多胎妊娠 4. 骨盤位（さかご） 5. 高齢妊娠 6. 妊娠中毒症 7. 着床障害 8. 子宮・卵巢の問題 9. 胎盤の問題 10. 羊水・羊膜の問題 11. 合併症妊娠（異常母体の正常妊娠） 12. 胎児のトラブル 13. 胎内感染 14. 前期破水 15. 妊娠中絶 16. 異常妊娠中の食生活

ることによって、数量化の内容に定性的（質的）な因子を加味しうるものと考えられる。

（表 1-1）

平成 3 年度の研究としては、洗い出し項目の妥当性を検討した。

情報を①正常妊娠、②異常妊娠、③分娩・出産、④育児上の親側の情報、⑤健康な子の育児情報、⑥子どもの病気・事故の 6 つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーに 13 ないし 17、合計 90 の洗い出し項目を設定した。（表 1-2～表 1-4）

この項目に従って、創刊以来平成 3 年 12 月号に至る計 75 冊のすべての記事を検索し

た。検索に当たっては、検索者による主観を排除するため、事前に全員で予備練習を行い洗い出しの客観性を維持するようにした。

検索した結果は表 2 の集計票によって入力した。

研究結果：

項目の洗い出しには、都内の看護大学生 11 名があたった。検索中疑義が生じた場合には必ず研究班に連絡し、研究班で統一見解を固めた上で検索者全員に知らせるようにしたが、検索中の問い合わせは数件に過ぎず、すべて個人的な説明ですむものだった。

表 1-3 検索項目一覧（洗い出し項目-2）

カテゴリーⅢ： 分娩・出産	カテゴリーⅣ： 育児上の親側の情報
1. 一般的な出産準備 2. 病・産院の選択 3. 分娩の兆候 4. 正常分娩のドキュメント 5. 異常分娩のドキュメント 6. 分娩法 7. 分娩時の栄養 8. 不正期産 9. 分娩時処置を必要とした 何らかの異常 10. 出産から1か月健診 （産褥健診）までの母体 11. 新生児の異常（入院中） 12. 出産にまつわる人間関係 13. 垂直感染 14. 出産にまつわる公的諸制度	1. 育児概論（親側の問題） 2. 生理と避妊、性生活 3. 育児中の母親の病気（心身） 4. 授乳中の栄養 5. 社会的儀礼（個人的なもの） 6. 母子関係 7. 育児に関わる人間関係 8. ワーキングマザー あるいは共働き 9. 夫との人間関係 10. 父親の育児参加 11. 託児施設 12. 育児中を前提とした 一般日用品・洋品など 13. 育児に関わる公的諸制度

75冊のビー・アンドの本誌、付録合わせた総記事数は6743で、90の検索項目で分類不可能な項目はなかった。

平成3年度は検索項目の妥当性を検討するために、平成3年1月号から同12月号までの12冊・1203記事についてデータ入力を行い集計したところ、90項目中89項目に少なくとも1以上の該当記事が存在した。該当しなかった1項目は「小児成人病」に関する項目で、これはビー・アンドが、生後6か月程度までを育児情報の対象としていることに関係すると推察される。

以上の結果より、ビー・アンドの1年分の

記事に関しては、我々が設定した90の検索項目で、すべての情報を過不足なく分類することが判明し、類推として、ビー・アンド75冊のすべてが分類可能、さらに、少なくとも雑誌メディアにおいて本法によって情報の量的解析が可能であると考えられた。

考察：

我々の方法で解析した情報量と他の方法による情報量とを比較検討する目的で、毎日EVRシステム発行の日母会員ビデオシステムニュース平成3年11月25日号に掲載されたビー・アンド平成3年11月号の分析結果

表 1 - 4 検索項目一覧（洗い出し項目 - 3）

カテゴリーⅤ： 健康な子の育児情報	カテゴリーⅥ： 子どもの病気・事故
1. 母乳栄養 2. 乳汁栄養 3. 離乳食 4. 幼児期の栄養 5. 睡眠・泣き・生活リズム 6. 日常生活 7. 身体発育 8. 健診・スクリーニング 9. 医療機関・医者 10. 精神・運動発達 11. 排泄 12. 育児洋品 13. 環境 14. 教育 15. 子どもの自立・しつけ・社会性 16. 人格、個性	1. 新生児の病気 2. 先天性の異常 3. 呼吸器疾患 4. 眼科・耳鼻咽喉科疾患 5. 歯科疾患・口腔内疾患 6. 消化器疾患 7. 腎・泌尿器系疾患 8. 脳・神経・精神疾患 9. 皮膚疾患 10. 骨・関節・筋疾患 11. 感染症 12. アレルギー疾患 13. 小児成人病 14. その他の病気 15. 予防接種 16. 事故および家庭看護 17. 病気と食事

と比較を行なった。

同誌によれば、ビー・アンド１１月号は総ページ数188 ページが、医学情報11%、妊娠生活情報15.4%、育児情報5.5 %、その他投稿・小説・ルポなど28%、CM40.1%に撚って構成されているという。

我々の解析法では、投稿・小説・ルポ・CMなども6つのカテゴリー、90の検索項目に分類されるため、直接の比較にはならないが、カテゴリーⅠ：正常妊娠24.1%、カテゴリーⅡ：異常妊娠0.9 %、カテゴリーⅢ：分娩・出産5.4 %、カテゴリーⅣ：育児に関する

親側の情報30.4%、カテゴリーⅤ：健康な子の育児情報58.9%、カテゴリーⅥ：子どもの病気と事故2.7 %（重複あり）であった。

これを、ページ数を項目数で除すという我々の方法で換算すると、カテゴリーⅠ27.9ポイント（以下pt）、カテゴリーⅡ1.9pt、カテゴリーⅢ12.2pt、カテゴリーⅣ19.2pt、カテゴリーⅤ38.0pt、カテゴリーⅥ1.5 ptとなる。

我々の方法におけるカテゴリーⅣ、Ⅴ、Ⅵに相当する育児情報は、日母会員ビデオシステムニュースの分析ではページ数で5.5 %で

表2 データ集計票

記事のタイトル										
ID	メディア	個体識別			量的	質的カテゴリー				
用紙番号	コード	年	月	番号	頁数	本・付	内容	制作者	S Q	肯定度
1	2	3			6	7				

カテゴリーⅠ：正常妊娠					12					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
13					18					23

カテゴリーⅡ：異常妊娠					27					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
28					33					38

カテゴリーⅢ：分娩・出産					44					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
45					50					55

カテゴリーⅣ：親側の情報					59					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
60					65					70

カテゴリーⅤ：健康な子の育児情報					73					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
74					79					84

カテゴリーⅥ：病気・事故					90					
1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
91					96					01

108	109	110	111	112
-----	-----	-----	-----	-----

左の欄には記入しないで下さい。

あり、我々の解析による高いポイントと大きな食い違いが生じている。その原因は、「すべての記事は情報である」という前提に立っての解析と投稿・小説・ルポ・CMを別の情報として分類する方法論の差によるものと、我々の方法は記事内容の重み付けを行っていないという点に求められよう。記事内容をいかに重み付けするか、そしてその重み付けの客観性をいかに保証するかが今後の課題と

なるであろう。

結語：

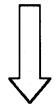
マスコミによって流される妊娠・出産・育児に関する情報の量的解析の手法の確立を試みた。マスメディアとして雑誌メディアを選び、まず広告・漫画などを含めたのすべての記事から、情報を①正常妊娠、②異常妊娠、③分娩・出産、④育児上の親側の情報、⑤健

康な子の育児情報、⑥子どもの病気・事故の6つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーに13ないし17、合計90の洗い出し項目を設定した。この項目に従って検索した結果、この項目ですべての記事内容を分類できることが判明し、少なくとも雑誌メディアにおいては本法によって情報の量的解析が可能であると考えられたが、質的内容を加味した解析のために、記事内容の重み付けが不可欠であると考えられた。

参考文献：

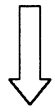
日母会員ビデオシステムニュース

vol. 13, No. 1, 1991



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:

マスコミによって流される妊娠・出産・育児に関する情報に対して、受け手がどのように反応しているかという調査は既に存在するが、情報そのものに関して解析した研究、あるいは情報を量として捉える研究はほとんど見受けられない。情報そのものの解析には質的解析と量的解析の側面が存在するが、新しいアプローチの方法としてマスコミ情報の量的解析の手法の確立を試みた。

マスメディアとして雑誌メディアを選び、まず、広告・漫画などを含めたすべての記事から、情報を 正常妊娠、 異常妊娠、 分娩・出産、 育児上の親側の情報、 健康な子の育児情報、 子どもの病気・事故の 6 つのカテゴリーに分類し、それぞれのカテゴリーに 13 ないし 17、合計 90 の洗い出し項目を設定した。この項目に従って検索した結果、この項目ですべての記事内容を分類できることが判明し、少なくとも雑誌メディアにおいては本法によって情報の量的解析が可能であると考えられた。